

学校評価(令和7年度)

★達成状況は各評価項目の結果を総合的に判断し、8割以上を達成・6割以上を概ね達成・4割以上をやや不十分・4割未満を不十分とした

1 目標達成の基本方針

	取組内容	達成状況	教員自己評価 (平均値)	教育調査 保護者%	教育調査 CS%	教育調査 教員%	区実態調査 児童(4・5・6) %	状況の把握	今後の改善策・充実させるための方向性等
①	全教育活動を通じて人権尊重と生命尊重を基盤とした活動を進め、助け合い、協力し合う児童の育成に努める。自他のよさ・可能性に気付かせるとともに、違いを認め合い自らの存在がかけがえのないものであることを実感させ、自尊感情の高い児童を育成する。	概ね達成	3.3	②69.4 ⑧41.4 ⑭74.8	①100 ②100	①94 ④88 ⑤75	14 (1) 76 14 (2) 64 14 (3) 89 14 (4) 87	学校での様々な学習を通して人権尊重、生命尊重について学びを深めている。各学級での指導だけではなく、学年全体での学習や校長からの訓話等で繰り返し繰り返し指導を行っている。道徳の授業では担任がクラスを交換しての授業を行うなど工夫をしている。 児童同士の学びあいの機会、関係性が高まるような機会を増やすことを意識した学習活動を展開している。	児童同士が互いの考えを伝えあい、認め合うことができるような機会、雰囲気を作り上げていく。学校全体で肯定的な見取りを増やし、自尊感情の高まりをつくっていく。
②	児童が自信をもち、未来への希望とよりよい生き方を求めているように、受容・共感・肯定などの開かれた雰囲気醸成する。児童一人ひとりにきめ細かく対応し、多様な教育の機会づくりに継続して取り組む。	やや不十分	3.4	④65.8 ⑪52.3 ⑫43.2 ⑬23.4			14 (1) 76 14 (2) 64	キャリアパスポートの定期的な記入や日々の授業での共同活動、各行事活動などを通して、よりよい生き方について考える機会を増やしている。保護者の教育調査では、児童の心の悩みに対して支援を行っているという項目に対して昨年度より4%程肯定率が上昇している。しかし、児童の質問紙の中では関連する項目では、杉並区の平均より10%程度低い現状がある。	時程の変更や働き方改革の推進を行いm児童一人一人に教職員が目向けられるような時間を捻出していく。また、児童の人間関係のアセスメントのためQUTテスト等の活用を図る。
③	カリキュラム・マネジメントを推進し、児童の学ぼうとする力、学んだ力や学んだことを生かす力を伸ばさせ、基礎的な知識・技能を習得させていく。特に言葉の力を生かす授業を進め、コミュニケーション力や言語感覚の育成を図り、関わる力、表現する力を付けていく。また、全教科において、児童が自ら課題を見だし、学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を育成するために、ICT機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく教育活動の推進を図る。	概ね達成	3.5	①70.3 ②69.4	⑤100 ⑦100	⑬81 ⑭69	12 (3) 77 14 (9) 91	「主体的に学び続ける学習者の育成～深い学びを創造する探究学習を通して～」の研究テーマの下、各学年が生活科・総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントを進めた。年3回の講師をお呼びした授業研究やICT活用研修等教員自身の資質向上にも努めた。 各教科の学習の振り返りを大切に、児童自身の自己評価能力の向上に努めた。 全学年児童用タブレットを活用した授業を進め、ICTスキルの向上も図ることができた。家庭学習では、AIドリルも使用し、これまでの家庭学習の転換を図った。	今年度同様、横断的なカリキュラム作成を行い、効果的かつ効率的な学習内容の作成を行っていく。総合的な学習の時間、生活科において探究を軸とした学びを進めていく。また、校内研究を教育DXとし、教員・児童・校務改善といった様々な面からこれまでの内容の転換を図っていく。
④	小中一貫教育の充実、日常化に向け、相互の指導方法について共通理解を深めるとともに、9年間を通して児童・生徒が安心して学校生活を送れるために学びの連続性を基にした授業研究を進める。第6学年児童の中学校体験や小中連携3校での授業公開、児童・生徒会での交流企画等により、中学校へのスムーズな移行を図れるようにする。	概ね達成	3.3	⑤42.3		⑧81		7月の馬橋小学校での合同研修会や杉森中学校生徒とのあいさつ運動、運動会ボランティア、6年生の杉野森中学校の訪問などを行い、連携を深めることができた。 6年生卒業後も中学校教員との連携を取りながら情報共有を進めている。 学校の取組を保護者へ伝えることができず教育調査でも肯定率が高くない。	小中一貫の取組を継続しながら、保護者の方に理解を促すためにHPの工夫（タグ付け等）を進めていく。馬橋小とも今後どのようなことができるのかを検討していく。
⑤	心身の調和的発達、体力の向上を目指し、体力調査の結果を生かした体育授業や体育的活動などを継続的にを行い、運動に慣れ親しむ児童の育成を図る。また、望ましい食習慣、健康的な生活習慣の確立を図るために、食育活動に力を入れる。	概ね達成	3.5				(5) 92.6 (6) 80.7 (8) 95.1 (体力調査)	元気タイムの実践、体育の授業の中での補助運動の精選、教職員の体育研修等昨年度の反省を生かした手だてを打つことで児童の運動能力の向上が見られた。 行事食やBookLunch、野菜の皮むき体験など食に対する興味関心を引くような活動を実施した。	引き続き、児童には運動を楽しみ、積極的に体を動かすことができるような機会を作っていく。また、教員研修や運動に関する予算配置も引き続き行っていく。
⑥	特別支援教育コーディネーターと特別支援教育専門員を中心として、支援を必要とする児童一人一人に適した効果的な教育活動を進める。校内委員会を機能させ、学習や生活の適応状況等を十分に把握し、個々の特性に応じた組織的な対応を図る。保護者が特別支援教室やインクルーシブ教育についての理解を深めるために学校便りやHP、tetoru配信等を通じて啓発的な手だてを講じていく。	概ね達成	3.6	⑬23.4	②100 ⑦100	③81 ⑭63	14 (5) 84	児童に関する情報を教職員全員で共通理解し、個に応じた対応を進めている。児童の特性に応じて、様々な教員、支援員、教育ボランティアが丁寧な関わりをもつことで児童にとってよい影響を与えている。 保護者への啓発については、昨年度の教育調査から3%肯定率が向上した。	次年度計画的に校内委員会を設置し、特別支援教室入級の事前の話し合いや取り出しの判定などを一層丁寧に行っていく。また、保護者への啓発は引き続き行っていく。
⑦	幼保小連携全体計画及び年間指導計画、スタートカリキュラムに基づき、幼児教育施設との連携を深めるために、体験的な活動を継続し、滑らかな接続を実現させる取り組みを充実させる。	概ね達成	3.5	⑮49.5		⑰75		低学年（1年生担任）を中心に幼保小の連携を進めることができた。連携園との交流活動や新1年生に対しての広報活動等を積極的に行った結果、保護者の教育調査では5%程度肯定率が上昇した。また、教員の教育調査でも10%の向上が見られた。	区からの指導を受けて、今年度の計画を見直し、児童園児の交流だけでなく、教職員の連携も深め、円滑な接続を進めていく。
⑧	学校支援本部と連携し、各学年の単元配列表をもとに、計画的に講師を招聘して質の高い授業の実施、地域との絆を深める活動を行う。	達成	3.5	④65.8	④100	⑦100	14 (10) 77	各学年とも学校支援本部の協力の下、様々な学習を進めていくことができた。地域の商店や人々との交流やユニバーサルデザインの学習、起業家教育の中でのチョコレート販売、キャリア教育など多様な機会を創出した。保護者の教育調査でも関連する項目で昨年度より5%肯定率の上昇が見られた。	学校支援本部やPTAとのコミュニケーションは積極的に図り、内容の精選や新しい提案を行っていく。
⑨	対面による学びのよさを生かしつつ、一人ひとりの学び方や探究を支えるための1人1台専用タブレット端末の効果的な活用をより一層推進する。また、情報活用能力と情報モラルの育成を目指すとともに、日常的に学習eポータル上のコンテンツを活用した学びの充実を図る。	概ね達成	3.6	⑥54.1	⑤100	⑬81	14 (9) 91	日々の学習の中でタブレットを使った学習が当たり前になっている半面、適切な使い方や家庭での使用方法について課題が見られている。保護者の教育調査では、デジタルの選択活用に関する項目では昨年度より10%肯定率が減少している。また、教員の教育調査でも昨年度より7%程度肯定率が減少している。	児童が学習の内容や学ぶ方法において効果的な選択する、決められたルールの中で使用するというモラル面での指導が必要となっており、まずは使ってみようというフェーズから次の段階に進む時期となっている。次年度の教育DX内で児童のICT活用能力も視野に入れ研究を進めていく。